



新装なった楼門



発行者兼編集者  
 鵜 戸 神 宮  
 社 務 所  
 印刷所  
 西 日 本 印 刷



ごあいさつ

宮司 佐師 朝規

明けまして

お目出度う御座います

平成三年の新しい年を迎え、謹みて  
 年頭の御挨拶を申し上げます。

昨年は皇紀二千六百五十年、教育勅  
 語発布百周年記念祭並に御即位の礼、  
 大嘗祭等奉祝の祭儀が万事滞りなく斎  
 行されました事は、誠に御同慶に堪え  
 ない次第で御座います。

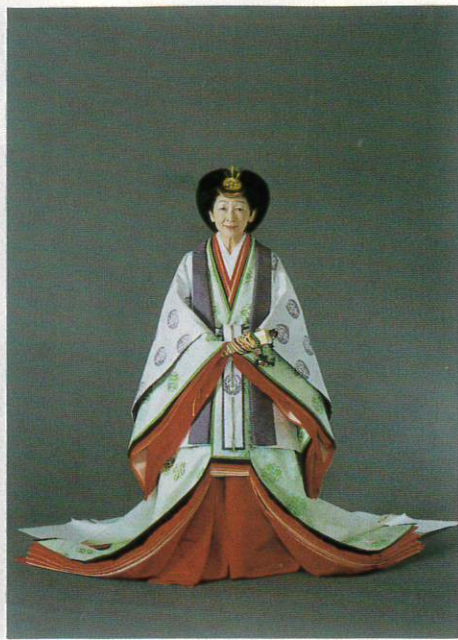
当宮におきましても楼門の塗装、トイレの改築工事等の数々の記念事業  
 を遂行する事が出来、これも偏に氏子崇敬者の方々の御協力の賜と厚く  
 御礼申し上げます。

殊に御大典を記念して責任役員、氏子総代の方々の御協力によって氏  
 子の皆様方より境内におがたまの植樹、又氏子各戸へ祝祭日に国旗、日の  
 丸を掲揚する運動も展開して頂き、十一月三日の明治祭を始めとして各  
 家々は無論の事駐在所、郵便局、公民館等に至る迄整然として国旗の翻  
 る様を見る事が出来、又参拝者の方々の感動の声を聞く事が出来ました  
 事は此の上ない慶びで御座います。

以来、祝祭日には各家々に国旗の上がつている様は日本国民として目  
 出度き極みであり、記念の献木が繁るが様に、日の丸の旗が永く翻るが  
 如く、氏子・崇敬者の方々の益々の御健勝と世界の平和、日本国の隆昌  
 を祈念して御挨拶と致します。



# 御大礼齋行される



高御座(左) 御帳台(右)

即位礼では、東帯姿の田中義一首相は、階段を下って庭上にて萬歳を三唱した。

## 「大嘗祭」

即位儀礼の中で最も重要とされ、一世一度の重儀とされてきた大嘗祭「大嘗宮の儀」は、十一月二十二日夕刻から二十三日未明にかけて、皇居東御苑に建てられた大嘗宮でほのかな明りの中、厳かに行なわれ、海部首相ら三権の長をはじめとし七百三十余名が参列した。

皇陛下は、高御座に昇らせられ続いて十二単姿の皇后陛下が御帳台に昇られた。そして天皇陛下はお言葉を述べられ即位のことを内外に宣明せられた。続いて、えん尾服姿の海部首相が即位をお祝い申し上げる寿詞を述べ、数歩後退して萬歳を先導、参列者が声高らかに三唱した。ちなみに、昭和三年、京都御所の紫宸殿に行なわれた昭和天皇の

御大礼とは即位礼、大嘗祭、大饗等を中心とする即位儀礼の諸儀式の総称である。

## 「即位礼正殿の儀」

十一月十二日午後一時、皇居宮殿正殿松の間で行なわれ、百五十八ヶ国、国連とECからの代表をはじめ国内各界から約二千二百人が参列した。黄櫨染御袍を召された天

この儀が、天皇の一生一度の重儀とされてきたのは、天皇が即位後初めてその年に穫れた稲や穀物を皇祖天照大神を始め、天地の神々に捧げられ、御自らさきこし召されることにより、天照大神の靈威を身につけられる儀の為である。

「大饗の儀」  
十一月二十四日から二十五日にかけて大嘗祭の直会にあたる大饗の儀が、三回にわたり皇居・宮殿の豊明

殿にて催され大嘗祭の参列者七百三十余名が出席した。これは、大嘗祭に供えられた白酒・黒酒等を参列者に賜り、天皇陛下の即位を御祝する儀である。

# 即位礼当日祭・大嘗祭 当日祭齋行

十一月十二日、十一時より責任役員、氏子崇敬者総代、敬神婦人会等の参列のもと即位礼当日祭が宮司以下祭員によって厳肅に奉仕された。祭典終了後、参拝者の方々と共に国家斉唱を

して責任役員先導のもと声高らかに萬歳を三唱した。又、社務所前にて天皇陛下の御即位と皇紀二千六百五十年を祝して二千六百五十個の記念メダルが参拝者に配布された。

十一月二十三日、午前十一時からは大嘗祭当日祭が責任役員、氏子崇敬者総代をはじめ官公衙、各地区々長、敬神婦人会等約百五十名の参列のもと宮司以下祭員の奉仕によって厳肅に齋行された。

例年は新嘗祭というのであるが、天皇陛下が即位され初めて行われる新嘗祭の事を特に大嘗祭という為に祭典名が変わったのである。今年穫れた新穀を神々に



捧げ、その神恩に感謝するこの祭には、日南市をはじめ南那珂郡内の各地区から数多くの献米、献酒、献菓子などが献上され、鶉戸小学校四年生によって、「こどもかぐら」が奉納された。祭典終了後には、大嘗祭と皇紀を祝し社務所前にて二千六百五十組の紅白餅が参拝者に配布された。尚、献上者、こどもかぐら奉仕者は次の通りである。

◎献米奉納者  
日南市益安地区、甲東地区、乙東地区、平山地区、大浦地区、松永地区、殿所地区、北郷町中央地区、坂元地区、新町地区、内之田地区、伊十川地区

◎献備品奉納者  
京屋酒造、松露酒造、井上酒造、谷口酒造、小玉醸造、門下酒造、桜乃峰酒造、寿海酒造、古澤醸造、松乃露

酒造、宮崎県酒造、谷口醸造、安藤醬油醸造、フンドーキン醬油日南営業所、とらや菓子店、明月堂、とおる屋菓子店、吉村菓子店、福田菓子店、横山菓子舗、はとや菓子店、杵屋菓子店、サンキュー堂、宮崎銀行油津支店、松浦剛士、小目井地区、津田酒店、鶉戸郵便局、鶉戸小学校、潮小学校、鶉戸中学校、清水和子、山下薫、是澤静子、舛肥菅林署、徳永靖夫、樺島謙一、村中酒店、山村昇、徳永前統、加藤俊、高橋明場、鶉戸水産、森水産

## ◎初穂料

矢野産業株式会社、日南郵便局、三ツ和荘、竹山真次、民宿南光、松下博良、吹毛井地区、榎木田スミエ、富澤ミヨ、小吹毛井地区、入山善賢、持永和見、延愛子、徳永前統、山村昇、前園製菓、北郷町新町地区、油津地区、鶉戸神宮敬神婦人会



紅白餅配布



こどもかぐら奉仕者

◎こどもかぐら奉仕者  
(神の舞) 福田智彦、(献穀の舞) 星野友基、川瀬洋、白方綾、(えびすの舞) 白方英輝、山口美香(順不同)



# 時

権祿宜 中武信明

儀式殿前広場の海桐花に赤褐色の種子が目につきはじめると「もう年の暮れか」と、ふと昨年もこの木を見てそう思っていた自分の姿が思い出されます。本日に月日が立つのは早いものです。時は現在まで平等に刻み続けているはずなのに、振り返ってみると駆け足で通り過ぎて来たように感じるの何故でしょうか。

毎日を不眠不休で仕事をしてきた訳でもなく、遊んできた訳でもありません。確かに仕事に追われていたり、何かに集中していたりすると時間の立つのは早く感じます。又、反対にひがな一日何をするのでもなくのんびりとしているのも同様です。しかし、時間が意地悪でもしているかのようにゆっくりとしか動かないと感じる事もあり、本日に時というものは不思議だなと思います。



海桐花

ゆく川の流れば絶えずし、しかも、もとの水にあらず。

これは鴨長明の随筆、方丈記の冒頭で、流れている川の流れば絶える事はないが、しかし、その川の流れるをなしている水は刻々と流れて元の水ではないというのです。時も同じで今日という日は永遠に来ないので、私達は毎日同じような事を繰り返しているのです。

「奥の細道」の冒頭には、月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。

という文がみえ、月日の移り変わりというものは永遠の旅人のようなもので、人生も同じ旅人であるというのです。

分り切った事ですが、時は絶対に留まる事はなく、一瞬一瞬が重なり一秒となり一分そして一時間、一日、一年と立って行くのです。誰にもこの永遠の旅人を止める事は出来ません。

ことわざの中にも「光陰矢のごとし」「歳月人を待たず」といったのが見えます。

が、確実に時間という階段を一步づつ昇っているのです。

又、松尾芭蕉作の紀行、「奥の細道」の冒頭には、月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。

という文がみえ、月日の移り変わりというものは永遠の旅人のようなもので、人生も同じ旅人であるというのです。

分り切った事ですが、時は絶対に留まる事はなく、一瞬一瞬が重なり一秒となり一分そして一時間、一日、一年と立って行くのです。誰にもこの永遠の旅人を止める事は出来ません。

ことわざの中にも「光陰矢のごとし」「歳月人を待たず」といったのが見えます。

このような事からも時がいかに大切であるかが分るし、そこから謙虚に振り返る事によって今自分は何をやらなければならないのかという事も分かって来るかと思えます。

最後に私の好きな言葉に「継続は力なり」というのがあります。これを常の信条としており月日が立てば

# 岩窟

出仕 淵田賢二

早期、朝拜の後御本殿へ上がる。御承知の通り、当神宮は他の社と違い社務所より下がった位置に御本殿が鎮座している下り宮である。その御本殿に先ずお参りし、神の御恵と祖先の御恩に感謝すると共に、御皇室の弥栄と世界の平和、国体の安泰を祈り、最後に自分を始め家族の健康を祈念する。その後授与所にて参拝者を待つ。

二度、三度と参拝された方は別として、初めて岩窟の中の御本殿を御覧になられる参拝者は、一際ならぬ驚き様で「わあ、凄い」と声を発せられる。現在は私も見慣れているが、最初は驚いた記憶がある。

参拝者の中には、時々こんな質問をされる方がいる。「こちらの御本殿の屋根は銅版ですね。」

「はい、銅版でございます。」と返答する。

「それでは何故、御屋根が黄色くなっているのでしょうか。」

一見、屋根は銅板の緑青が出ていて緑色だが、注意して見ると僅かだが黄色く見える。それは何故であろうか。鵜戸は第三紀青島層に属し、砂岩粘板岩の五層か



御本殿

ら成っている。岩窟は地質学的にみると砂岩層で石灰を多く含んでいる為、自然と砂等が屋根に落ちてくるのではないだろうか。他にも岩窟が日向灘に直面しているの、海が時化たりすると砂や塩等が入ってきて屋根に付く為とも考えられる。しかし、黄色く見える屋根も年二回の掃除によって流される。何故なら御本殿が岩窟の中に鎮座している為、雨の日でも屋根は雨に打たれず、砂や塩等を洗い流さないからである。他の社では先ず考えられない事だと思ふ。

雨に濡れないかわりに湿度が高く梅雨時期ともなると幣殿の床がびっしょり濡れてしまう。

御本殿は漆塗りである為日供祭、諸祈願時には足袋が真赤になる。洗濯してもなかなか落ちないものである。又、よく質問を受けるのが岩窟の落石の事である。初めて参拝される方は最初驚かれ、その後、落ちてきたらどうしようと思われるはずである。過去に小石ぐらいの石が落ちた事があるが現在では、岩間に特種接

着剤にて力が入るのを防いでいる。落石するのは岩間に入った水が氷り膨張する為落石となるのである。岩間を防いでしまえば落石することは無いと言うわけである。

音が響くという点も特徴の一つと考える。

岩窟の中なので当然と云えば当然なのだが、太鼓を打つたりすると「ドーン」と響きわたり、参拝者を度々驚かせる。

他にも色々特徴があると思うが、これから先も御本殿の事のみならず、神宮の事を出来るだけ多く学び鵜戸の大神様に御奉仕する所存である。

## 鵜戸山玄深記(四)

石窟の字形 高野山奥之院ハ 鏡字ノ姿ト云云



三十七牧ニシテ則三十七尊之種字ヲ書ケリ亦此橋ヲ新ラシク掛替ルト雖氏一向金釘ヲ打事ヲ制ス此事當之大工棟梁之家ニ云傳ヘタリ思フニ此亦高野山御廟橋ト其深意同キ也野山御廟橋之板数金剛界之三十七尊ニ表シテ三十七牧アリ故ニ板之裏コトニ三十七尊之種字ヲ書ケリ去レハ大師之冥慮ニ叶ハサル人ハ必ス障導アリテ此橋ヲ渡リ得スト云傳ヘタリ然ルニ愚蒙之輩ハ疑心ヲ起シテ是ヲ怪シキ事ト思ヘリ依之現ニ其野ヲ蒙リ橋ヲ渡リ得スシテ帰ル者間是アル事ヲ名霊集ニ演ルカ如シ亦高野明神之託宣ニ奥院参詣時木履ヲ履ヘカラス神祇冥道常ニ充滿シ玉フカ故也トノ玉ヘリト亦藤原之通憲之子明遍上人常ニ大師之御廟ニ詣テケルカ橋ヨリ内ハ透間モナク諸佛集會シ玉フト申サレシトイエリ當山モ其ノ如ク橋ヨリ内ニハ諸神諸佛常充滿集會シ給フナラン然氏凡見ニ是ヲ知ラス天神地祇之集會ヲ拜セサル事寔ニ觀行之至ラサル故ナルヘシ

①僧侶一僧侶と俗人  
②往古一おおむかし  
③木履一齒・鼻緒のある板製履物の総称  
④悶絶一もだえ苦しんで気絶すること  
⑤三十七尊一金剛界曼荼羅成身会の中心となる尊体。五仏・四波羅蜜菩薩・十六大菩薩八供。



⑥ 種子―密教で仏・菩薩または種々の事項を標示する  
梵字

⑦ 一向―全く。少しも。

⑧ 大師―弘法大師

⑨ 冥慮―神仏などの深いおぼしめし

⑩ 障導―さまたげ、さわり。障害。

⑪ 愚蒙―おろか

⑫ 冥道―冥界・冥界にあるもろもろの仏

⑬ 藤原通憲―平安後期の廷臣・官は少納言にとどまっ  
たが博学で著名。薙髪して信西と称し、  
後白河天皇の近臣として活躍。

⑭ 上人―知徳を具備した僧。また僧侶の敬称。僧位の  
名。

⑮ 廟―祖先の霊を祭る所。霊屋。おたまや。

⑯ 天神地祇―天つ神と国つ神。すべての神々

⑰ 観行―観念修行のこと。

社務日誌抄

平成二年  
一月一日 歳旦祭  
一月三日 元始祭  
一月六日 明治神宮崇敬者  
百三十名参拝  
一月七日 昭和天皇御陵遥  
拜式  
一月八日 臨時大祓式  
一月九日 日南地区交通安  
全祈願祭  
一月二十三日 愛知県山口  
八幡社宮司丹羽  
蒼氏他七十二名  
参拝



山口八幡神社 宮司丹羽蒼氏

一月二十五日 駐車場記念  
碑竣工祭  
熊本県岡留熊野  
座、須恵諏訪神  
社宮司尾方清人  
氏他三十三名参  
拝

二月二十九日 鵜戸稲荷神  
社例祭  
榑スウイズ会長  
菅原宣彦氏参拝



榑スウイズ 菅原宣彦氏

二月一日 例大祭  
第十八回奉納四  
半の大会開催

二月四日 風田、中央地区  
御供上げ歌合戦  
七十五名参拝

二月四日 第三十七回剣法  
発祥鶴戸山顕彰  
剣道大会開催

二月六日 九州地区別表神  
社宮司会出席の  
為宮司鹿兒島へ  
出向

二月七日 大分県護国神社  
宮司板井清直氏  
参拝

二月十一日 紀元祭  
二月十四日 広島東洋カ  
プ必勝祈願祭

二月十七日 祈年祭  
二月二十日～二十二日  
神青協中央研修  
会出席の為永友  
権祐宜石川県へ  
出向

二月二十一日 大鳥大社宮  
司山本博之氏他  
八名参拝

二月二十五日 兵庫県内尾  
神社宮司梅本瑞  
穂氏他四名参拝

三月一日 宮内庁京都事務  
所次長吉田功氏  
他三名参拝

三月六日 鹿兒島県紫尾神  
社宮司上牧瀬力  
雄氏他六名参拝

三月八日 宮内庁書陵部  
長井関英男氏他  
一名参拝

三月十三日 宮内庁長官官  
房秘書課給与係  
長横堀富三氏他  
一名参拝

三月十四日 群馬県神社庁  
副庁長塩原行雄  
氏他勢多支部二  
百十名参拝

三月十六日 京都府栗田神  
社宮司佐々木頼  
氏参拝

三月十九日 広島県神社庁  
庁長櫻井正弥氏  
他三十九名参拝



大鳥大社 宮司山本博之氏他

三月十四日 群馬県神社庁  
副庁長塩原行雄  
氏他勢多支部二  
百十名参拝

三月十六日 京都府栗田神  
社宮司佐々木頼  
氏参拝

三月十九日 広島県神社庁  
庁長櫻井正弥氏  
他三十九名参拝

三月二十五日 シャンシャ  
ン馬道中唄全国  
大会決勝  
〃 シャンシャン馬  
道中新婚五組参  
拝

三月二十六日 京都聖護院  
連合会長北村善  
一郎氏他四十名  
参拝

三月二十八日 群馬県神社  
庁勢多支部副支  
部長他百六十名  
参拝

四月十日 伊勢神宮祓宜本  
城美臣氏他一名  
参拝

四月十四日 徳島県神社庁  
那賀支部支部長  
天野宗二氏他十  
六名参拝

四月二十二日 東京都永川  
神社宮司篠健三  
氏外三十七名参  
拝

四月二十七日 都農神社宮  
司代務者老岐秋  
吉氏他二十名参  
拝

五月三日 京都皆本幹雄氏  
他十九名参拝

五月五日 節句祭 奉祝行  
事いさみ太鼓奉  
納

五月七日 二見興玉神社興  
玉一心教会教主  
梅原明行氏他二  
十九名参拝

〃 責任役員会  
五月十日～十一日  
九州連合神職総  
会出席の為宮司  
他職員鹿兒島県  
へ出向

五月十八日 別当宮司先賢  
慰霊祭  
五月二十二日 氏子・崇敬  
者総代会

五月二十八日～二十九日  
敬神婦人会研修  
旅行(鹿兒島方  
面)

六月四日 大阪府、旧官社  
宮司会校岡神社  
宮司二條正基氏  
他七名参拝

六月四日～八日 職員研修  
旅行(北海道)

六月十一日～十五日 〃

六月十三日 二見興玉神社  
祓宜高柳武司氏  
他十二名参拝

〃 笠間稲荷神社祓  
宜宮本正延氏他  
十九名参拝

六月二十日 二見興玉神社  
宮司濱千代正美



二見興玉神社 宮司濱千代正美氏他

六月二十四日～二十八日  
責任役員研修旅  
行(北海道)

六月二十六日 笠間稲荷神  
社権祓宜二平武  
氏他十六名参拝

六月三十日 大祓式  
全祈願祭

〃 鹿兒島神社宮司  
山下文弘氏他総  
代十名参拝

七月五日 熱田神宮豊年講  
員九十四名参拝

七月二十三日～二十五日  
舞楽講師藤原健  
氏来宮舞楽講習

八月七日 福島県神社庁研  
修所講師大森邦  
雄氏参拝



尾張富士大宮浅間神社 宮司高田達夫氏他

八月七七日 九州管区警察局  
長石田慧史氏他  
六名参拝

八月二十七日 今山八幡宮  
宮司岩切重信氏  
他六名参拝

九月十日 愛知県、尾張富  
士大宮浅間神社  
宮司高田達夫氏  
他八名参拝

九月二十五日 東京都、蒲  
田八幡神社宮司  
上野喜信氏他二  
十一名参拝

十月二十四日 北海道神社  
庁札幌支部三橋  
支部長他三十四  
名参拝

十月三十日 教育勅語発  
布百周年記念祭

十一月三日 明治祭  
十一月十二日 即位礼当日  
祭



蒲田八幡神社 宮司上野喜信氏他

十一月十六日 三ツ和荘前  
トイレ竣工祭

十一月十九日 桜山神社宮  
司阿部匡紀氏他  
六名参拝

十一月二十日 臨時大祓祭

十一月二十三日 大嘗祭当  
日祭

十一月二十五日 御大典奉  
祝大会の為宮司  
他職員宮崎市へ  
出向

十二月二十三日 天長祭

十二月二十七日 煤払祭

十二月三十一日 大祓式、  
除夜祭



# トイレ完成

今年八月三十日に地鎮祭を執り行ない、新築工事を進めていた三ツ和荘前トイレ(建物面積四二、七五平方メートル。外壁は鉄肥杉



を使用。屋根はコロニアル葺)の竣工祭が十一月十六日、日本晴れの午前十一時より当神宮宮司をはじめ責任役員、氏子総代、工事関係者他多数の参列のもと厳粛に斎行された。

これはこれまでのトイレが、老朽化し又小さく参拝者の多い日は混雑し迷惑をかけていた為、御大典奉祝記念事業の一環として建設されたものである。

# 「二本杉」折れる

境内の新駐車場参道の側

にそびえ、昭和四十五年に日南市の天然記念物に指定されていた一本杉が、九月十九日の台風十九号の影響で、根本から五メートル程のところまで折れた。推定樹



齢八百年、高さ四十二、五メートル、幹回り六、七メートルの大木ではあったが、白アリの被害によって幹内部がほとんど空洞化していた為、台風に耐えきれなかったものと思われる。かつては「鶴戸山三本杉」と呼ばれていた三本の巨木杉があったが、年と共に朽ちはててこの一本だけが、その当時の面影を今に伝えていると思うと残念でならない。

# 編集後記

○「即位礼正殿の儀」「大嘗宮の儀」がとにかく無事に斎行された事は、この上ない慶びであります。

当宮におきましても数々の祭典を執り行ないました。が、気の引き締まる思いで祭典を奉仕したのは、私だけではなかったように思われます。

○先日「蛭蛇げびになめられると禿禿る」という話を久し振りに聞きました。その理由は分かりませんが、辞典をひらいて見ると昔の人は頭髮の一部が丸くはげるとゲジゲジがなめた為と書いていました。これは誤りで、平安時代の曆に下食の日というのがあってこの日に髪を洗うと鬼に頭をなめられて禿になると信じられていたことから下食時をなまり誤って、ゲジゲジというようになったものであろうと思われるという。このことわざの中にこのような意味があったのかと改めて驚かされた日でした。

(中武)